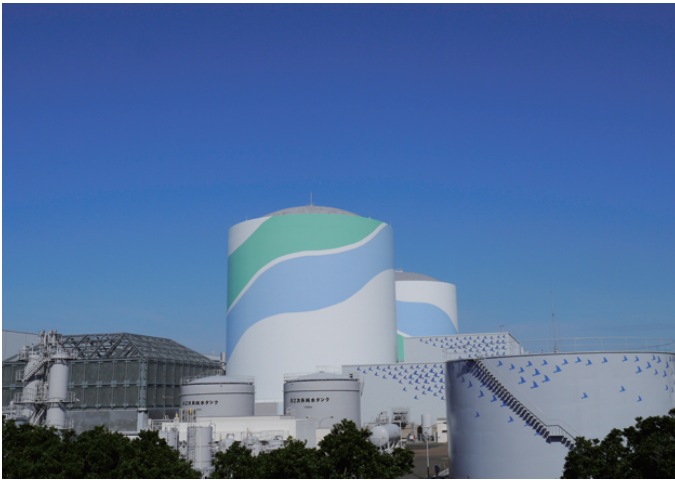


## 原子力発電の活用による温室効果ガスの削減



川内原子力発電所 (鹿児島県薩摩川内市)

地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出抑制を図る上で、発電の際にCO<sub>2</sub>を排出しない原子力発電は、非常に重要な役割を果たすと考えています。

当社の川内原子力発電所1、2号機は、国の新規規制基準への合格を経て、1号機が2015年9月10日、2号機が2015年11月17日に通常運転に復帰しました。

また、玄海原子力発電所3、4号機についても、早期再稼働を目指し、全社一丸となって、国の新規規制基準への適合性審査に適切かつ丁寧に対応しています。

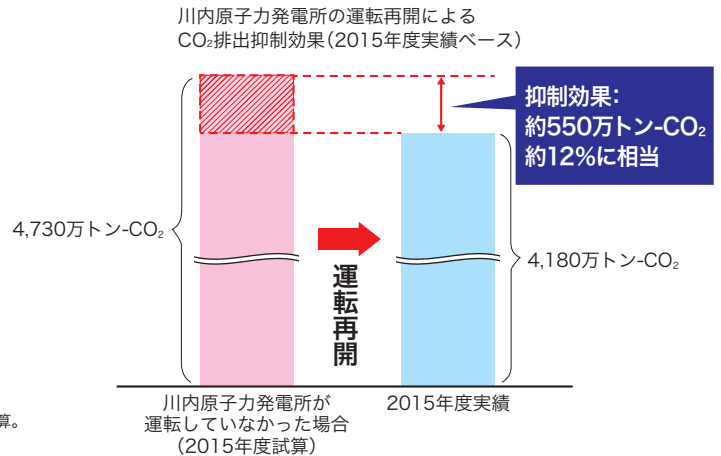
当社は、引き続き、安全の確保を大前提とした原子力発電の活用を通じ、低炭素社会の実現に向けて取り組めます。

### 川内原子力発電所の運転再開によるCO<sub>2</sub>排出抑制効果

川内原子力発電所1、2号機が2015年9月と11月にそれぞれ通常運転に復帰したことにより、火力発電所の稼働率が低下したことから、2015年度は約550万トンのCO<sub>2</sub>排出抑制につながったと試算しています<sup>※1</sup>。2016年度は、定期検査を除き、年間を通じて川内原子力発電所1、2号機が運転を行う予定であるため、CO<sub>2</sub>の更なる抑制が期待できます。

また、同じく火力発電所の稼働率の低下により、大気汚染物質である硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)や窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)などの排出量についても、2014年度からSO<sub>x</sub>が約30%、NO<sub>x</sub>が約15%減少しました<sup>※2</sup>。

※1：2015年度における川内原子力発電所1、2号機の発電量を火力発電で賄った場合と比較して試算。  
 ※2：SO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>の排出量については、P.27参照。



### 【参考】エネルギーミックス達成に向けた取組み

2015年7月、国は2030年におけるエネルギーミックスを策定しました。これは、国、事業者、国民が一体となり、総発電電力量の約17%に相当する更なる省エネの徹底などを通じて、達成を目指すものです(右図参照)。

当社においても、事務所はもとより、自治体等と連携した省エネPR活動やエコキュート等の高効率機器の普及促進に努めるとともに、スマートメーターで計測した電力使用量の提供など、お客さまの上手な電気の使い方につながる取組みを推進します。

また、エネルギーミックスを踏まえて設定した、新電力を含む電気事業者全体の目標達成に向け、再エネの積極的な開発・導入や最大限の受入れ、原子力発電所の再稼働や安全・安定運転、火力発電の高効率化等に取り組めます。

#### 【電気事業全体の2030年度目標】

- ・2030年度に排出係数0.37kg-CO<sub>2</sub>/kWh(使用端)を目指す
- ・経済的に利用可能な最良の技術(BAT)を活用すること等により、最大削減ポテンシャルとして約1,100万トン-CO<sub>2</sub>の排出削減を見込む

